

学びの羅針盤



令和8年3月
鹿児島県教育委員会

発刊に寄せて

平成27年3月に、学び続ける教員の手引書として「学びの羅針盤」が発刊され、これまで各学校の授業改善を目指した校内研修など様々な機会でも活用されてきました。

令和6年度の改訂では、中教審令和3年答申において示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」をより一層推進するため、「学習者主体の授業」の実現を図るよう大きく刷新しました。その後も、令和7年度、8年度で改訂を重ねています。令和8年度版では、これからの時代に、なぜ「学習者主体の授業」が必要とされているのか、さらに、「学習者主体の授業」を進めていくためにはどのような考え、方法が必要になるのかについて述べています。また、後半には「学習者主体の授業」の実践例を掲載しています。

なお、本資料は、掲載されている方法や実践例を各学校においてそのまま画一的に適用することを意図したものではありません。これからの時代に求められる学びの方向性を示す「羅針盤」として、各学校がそれぞれの実情に応じて「学習者主体の授業」を実現していくための考え方を共有することを目的としています。本資料が、教員同士の対話や実践の振り返りを促し、さらには保護者の方々とも学びの在り方を考える契機となることを期待しています。

子供の学びの深まりや学力は、授業の質や学校全体の取組により大きく左右されます。だからこそ、個々の教員や学校は、一人一人の子供と学校全体の学力の現状を真摯に見つめ、質の高い授業の実現や授業改善に向けた学校の組織的な取組の充実を目指さなければなりません。そのために、先達がこれまでに蓄積してきた知見を生かし、教員一人一人が主体性を発揮し、同僚性を高めながら研鑽に努めていくことが求められているのです。

最後になりますが、発刊につきまして御協力いただいた鹿児島県学力向上検証改善委員会をはじめとする関係の皆様、厚く御礼申し上げます。

令和8年3月

I 鹿児島県の教員として P1

II 「学習者主体の授業」の必要性 ～主体的・対話的で深い学びを実現するために～ P2～P5

- | | | |
|---|--------------------------------|-----|
| 1 | 子供たちにどのような資質・能力を育成すればよいですか | …P2 |
| 2 | 子供たちの資質・能力を育成するためには何が求められていますか | …P3 |
| 3 | 鹿児島県の子供たちの学力や学習状況の現状はどうなっていますか | …P4 |

III 「学習者主体の授業」による学びの質の向上 P6～P25

- | | | |
|---|------------------------------------|------|
| 1 | 「学習者主体の授業」を実現するにはどのような考えが必要ですか | …P6 |
| 2 | 「学習者主体の授業」はどのようにデザインすればよいですか | …P7 |
| 3 | 「学習者主体の授業」は、具体的にどのように進めればよいですか | …P7 |
| 4 | 「学習者主体の授業」とつながる家庭学習はどのように進めればよいですか | …P10 |
| 5 | 「学習者主体の授業」を実現するために、どのような研修が必要ですか | …P12 |
| 6 | 「学習者主体の授業」の効果を高めるために必要なことは何ですか | |
| | 視点Ⅰ 「生徒指導」の視点を重視した授業改善 | …P13 |
| | 視点Ⅱ 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善 | …P14 |
| | 視点Ⅲ 「教育DX」の視点を重視した授業改善 | …P15 |
| 7 | 「学習者主体の授業」の実践例はありますか | …P16 |



中教審令和3年答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められています。二次元コードを読み取り、その概要を確認しておきましょう。

←「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）【令和3年1月26日】

I

鹿児島県の教員として



今、私たち教員に求められていることは

子供たちを取り巻く社会は大きく変化しています。
今、私たち教員に求められていることは何なのでしょう。

「教えることは 学ぶことである
学ぶことは 深く生きようと願うことである」
総合教育センター「教学一如」の碑から（一部抜粋）

子供たちと共に学び、深く生きる。南北600kmのステージで、私たち教員にはその喜びが与えられています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じて主体的・対話的で深い学びを実現することが、子供たちだけでなく、「新たな教員の学びの姿」として教員にも求められています。

子供の学びと教員の学びは「相似形」とも言われています。「学ぶ」ことを楽しいと思える教員と一緒にいてこそ、子供たちの学びは豊かになる、幸せにつながる。そう信じています。



「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」とあります。
第21条「研修」をチェック！

←「教育公務員特例法」



教員としてのキャリアステージに応じて求められている資質があり、県では「かごしま県教員等育成指標」としてまとめています。

←「かごしま県教員等育成指標」
【令和8年4月（一部改訂）】

II

「学習者主体の授業」の必要性

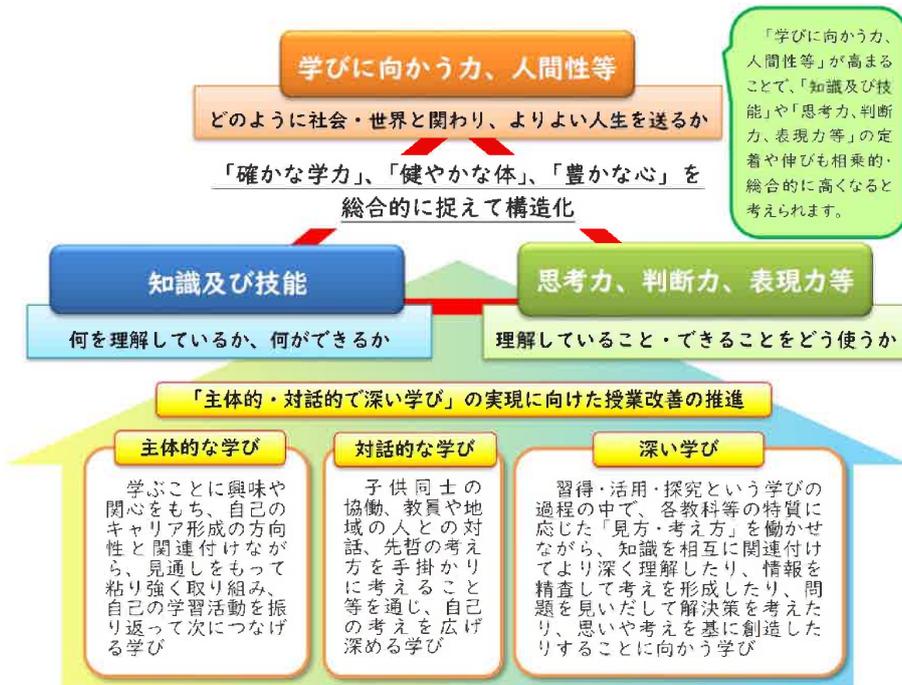
～主体的・対話的で深い学びを実現するために～

1 子供たちにどのような資質・能力を育成すればよいですか

Answer

学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むことが求められています。そのため、全ての教科等において、資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していく必要があります。

- 深刻さを増す少子化・高齢化、協調・競争と分断・対立により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の発展といった大きな変化が相まって、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっています。
- このように子供を取り巻く環境が大きく変化する中で、現行の学習指導要領では、子供たち一人一人がよりよい社会と幸福な人生の創り手として必要となる力を身に付けることができるよう、「何を学ぶか」(取り扱う指導内容)だけでなく、その内容を学ぶことで「何ができるようになるか」(資質・能力)も示されました。
- そして、育成すべき資質・能力を「生きて働く知識及び技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の三つの柱として整理しています。
- 私たち教員は、学校教育目標の実現に向けて、子供たちに育成する資質・能力を校内で共有し、具体化の手立てを教育課程に反映し、意図的・計画的に実施、評価、改善していく必要があります。
- その際、子供たちや地域の実態を踏まえた上で、例えば生徒指導や特別支援教育、教育DXの視点などを有機的に関連付けながら、総合的・包括的に運営していくカリキュラム・マネジメントが重要です。
- また、教育の目的について、その法的根拠を理解しておくことも重要です。教育基本法に掲げられている教育の目的についても、下の二次元コードから確認しておきましょう。



教育基本法についても確認しておきましょう。
第1条「教育の目的」もチェック！

←「教育基本法」



学校教育法についても確認しておきましょう。
第30条第2項とも関連！

←「学校教育法」

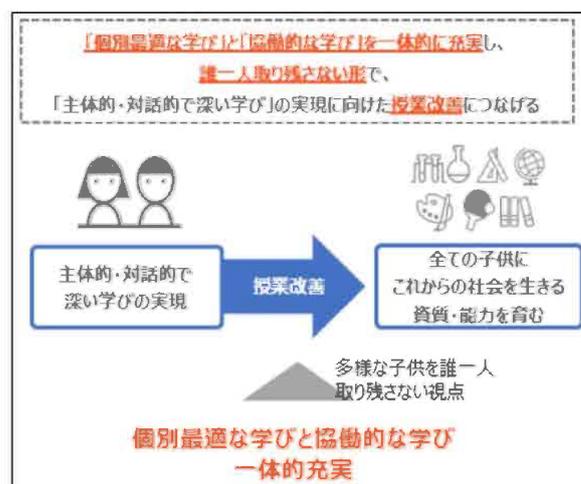
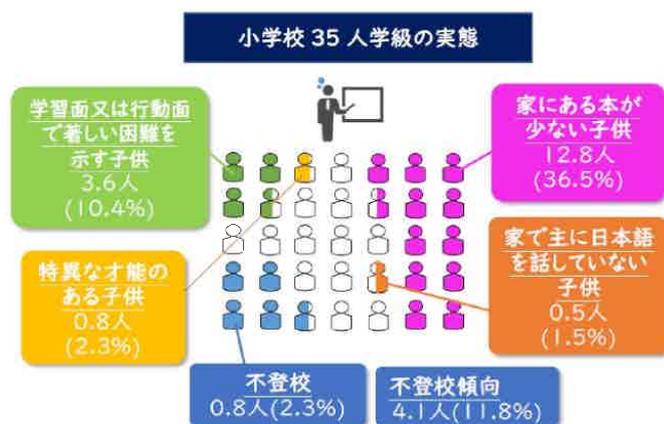
2 子供たちの資質・能力を育成するためには何が求められていますか

Answer

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進することです。

- これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の「成果」だけでなく、学校での学びの「過程」において、主体的に考え、対話を通して考えを広げ、学びを深めていくという「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。
- 一方、下の図にあるように、子供たちの実態は多様化しており、理解度や認知の特性、興味・関心等には大きな個人差があります。
- このような状況において、特定の指導方法や学習方法を全員に取り入れたからといって全ての子供の学びを「主体的・対話的で深い学び」にできるとは限りません。
- 「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成を、誰一人取り残さず全ての子供に実現できるようにしていくための視点が、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」です。
- 中教審令和3年答申においては、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」としています。
- 子供たち一人一人の理解度や認知の特性、興味・関心等を踏まえた「個別最適な学び」と、それらの学びが孤立することがないようにする「協働的な学び」を一体的に充実することで、全ての子供たちに対して、「主体的・対話的で深い学び」を実現することができま
- 持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことが求められています。

このような、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点をもった「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業を「学習者主体の授業」とし、これを実現することが必要になります。



(出典) 文部科学省
「教育課程企画特別部会における論点整理」
【令和7年9月25日】を基に作成



(出典) 文部科学省「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』



3 鹿児島県の子供たちの学力や学習状況の現状はどうなっていますか

Answer

全国学力・学習状況調査の結果から、小学校は全国平均正答率とほぼ同程度の状況にあります。層分布で見ると、学力下位層の割合が全国と比べて低いものの、上位層の割合も全国と比べて低い傾向にあり、基礎的・基本的な学力の底上げが図られている一方で、学力の伸長には課題が見られます。中学校は全国平均正答率を下回り、学力下位層の割合が全国と比べて高い傾向が続き、その差が広がっています。このことから、学力の二極化が進んでいる状況がうかがえます。

また、小・中学校ともに「課題の解決に向けて自分で考えて取り組む」などの主体的・対話的で深い学びに関する項目や、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか」という主体的な学習の調整に関する項目が低いことなど、「学びに向かう力、人間性等」に関する調査において依然として課題が継続しています。

【各教科の平均正答率及び観点別平均正答率】

※ 令和7年度「全国学力・学習状況調査 鹿児島県結果分析」から抜粋

	国 語			算数・数学			理 科		
	平均正答率	観点別平均正答率		平均正答率	観点別平均正答率		平均正答率	観点別平均正答率	
小学校		知・技	思判表		知・技	思判表		知・技	思判表
鹿児島	67	74.3	63.5	57	65.5	47.1	60	59.1	60.6
全 国	66.8	74.5	63.8	58.0	65.5	48.3	57.1	55.3	58.7
中学校	平均正答率	観点別平均正答率		平均正答率	観点別平均正答率		IRTスコア	観点別平均正答率	
鹿児島	53	44.3	54.9	45	52.1	34.1	493	52.9	43.9
全 国	54.3	48.1	55.3	48.3	54.4	39.1	503	55.1	45.4

※ 網掛けは観点別平均正答率で、全国と比べ0.5ポイント以上下回っている項目

【児童生徒質問調査から】

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

質問の概要	小学校			中学校		
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
主体的・対話的で深い学びに関する質問						
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	25.8	29.0	-3.2	19.9	23.4	-3.5
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。	35.7	34.4	1.3	19.4	22.1	-2.7
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	39.4	40.9	-1.5	31.7	35.1	-3.4
授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	34.6	35.5	-0.9	21.6	23.5	-1.9
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	47.6	49.9	-2.3	42.2	45.5	-3.3
主体的な学習の調整に関する質問						
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	31.2	32.6	-1.4	25.1	27.4	-2.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	31.4	31.2	0.2	21.7	23.0	-1.3



全国学力・学習状況調査結果から子供の実態が分かります。
←鹿児島県教育委員会
「全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析」



鹿児島学力・学習状況調査の分析結果も確認しましょう。
←鹿児島県教育委員会
「鹿児島学力・学習状況調査報告書」
(旧鹿児島学習定着度調査)

年度当初に、学校教育目標（①）や目指す子供像（②）を確認しましょう。
また、校内研修等において、自校の子供たちの姿（③）を振り返り、育成したい資質・能力（④）や目指す授業像（⑤）について語り合い、観を交流しましょう。

① 学校教育目標

Blank area for writing the school education goal.

② 目指す子供像

Blank area with horizontal dashed lines for writing the target image of children.

③ 自校の子供たちの姿

Blank area with horizontal dashed lines for writing the posture of children in the school.

④ 育成したい資質・能力

Blank area with horizontal dashed lines for writing the qualities and abilities to be cultivated.

⑤ 目指す授業像

Blank area with horizontal dashed lines for writing the target image of lessons.

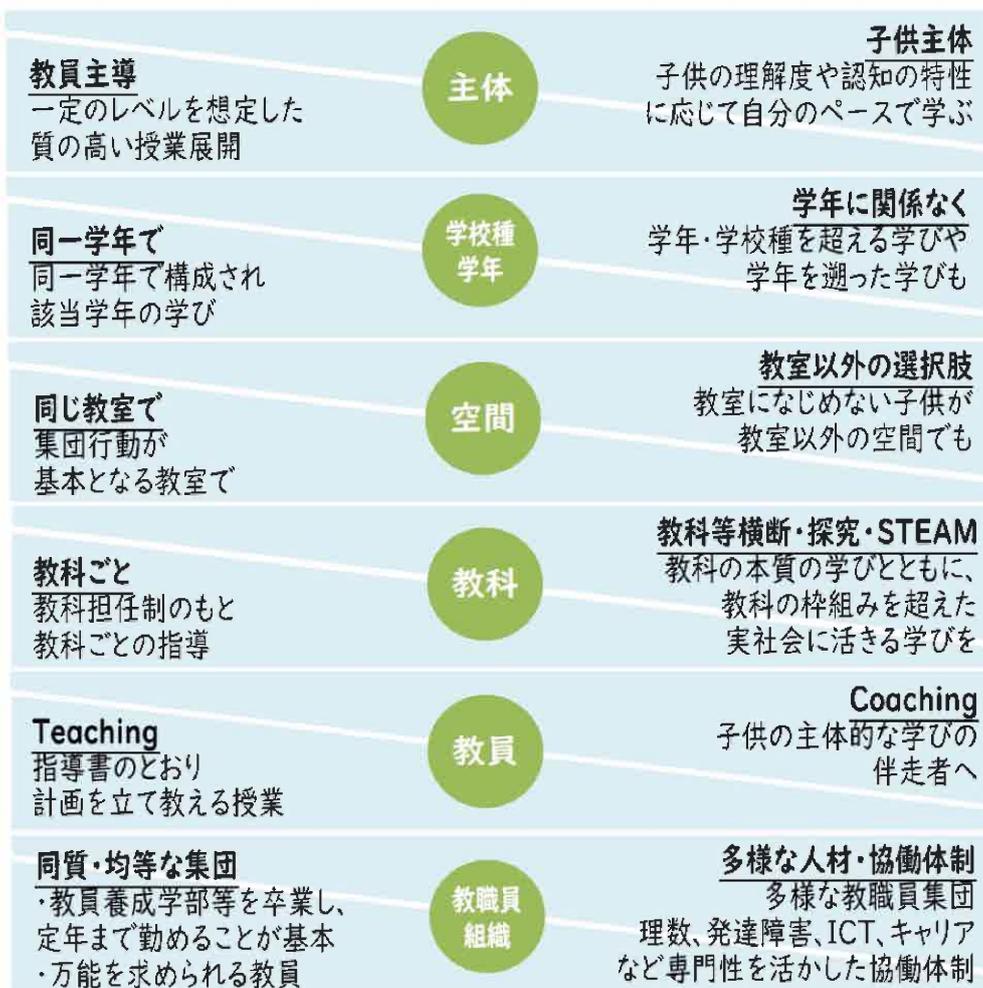
III 「学習者主体の授業」による学びの質の向上

I 「学習者主体の授業」を実現するにはどのような考えが必要ですか

Answer

子供に委ねる場面と教員が主導する場面とのバランスを踏まえた単元計画をデザインした上で、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切です。

- 「学習者主体の授業」は、多様な特性を有する全ての子供に対して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会で求められる資質・能力を育成することを目指します。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に行われる授業では、子供が主体となって興味・関心に応じて学習方法や内容を選択・決定していく場面も必要となります。
- ただし、全ての授業を子供に委ねなければならないということではありません。教員による質の高い授業が子供の資質・能力の育成につながる場合もあります。
- 下の図は、Society 5.0の時代に求められる人材育成の観点から、教育の在り方を整理したものです。学びの主体や教員の役割など、教育の在り方が示されています。
- つまり、これからの教員に求められることは、教科等の特性や子供の実態に応じて「教員主導」と「子供主体」のバランスを見極めて単元計画をデザインしていくことであり、教材研究を重ねることが重要になります。



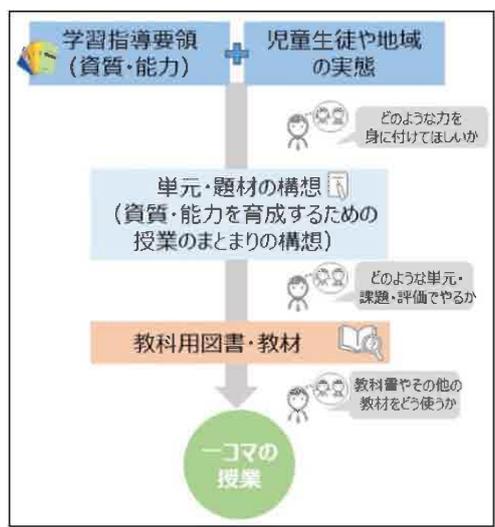
(出典)「[Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ\(内閣府 総合科学技術・イノベーション会議資料【令和4年6月2日】\)](#)」を基に作成

2 「学習者主体の授業」はどのようにデザインすればよいですか

Answer

単元を通して育成したい資質・能力を明確にし、それを全ての子供が身に付けられるようにするために、子供の実態や教科等の特性を踏まえながら全体に指導する場面、子供が個別に学習を進める場面、協働的に学習を進める場面を効果的に組み合わせる単元計画をデザインすることが大切です。

- 「学習者主体の授業」を実現するためには、教員には単元全体を見通して学びを構想する役割が求められます。単元という一定のまとまりの中で、学習のねらいやゴールを明確にし、子供が主体となって学ぶ場面と教員が指導する場面を意図的に配置することが大切です。
- 具体的には、求められる資質・能力や子供・地域の実態に応じて、単元をどのように構成するかが重要です。例えば、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面や、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、子供が個々にじっくりと取り組んだり考えたりする場面と教員が教える場面をどのように設定するかといった観点で、単元計画をデザインすることが「学習者主体の授業」の実現につながります。



(出典) 文部科学省「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』

3 「学習者主体の授業」は、具体的にどのように進めればよいですか

Answer

育成する資質・能力を踏まえた上で子供に学習を委ねる場面や、子供自身が自己選択・自己決定できる機会を意図的に設定しながら進めていくことが大切です。その際、教員は「ファシリテーター的な役割」として、子供たちそれぞれの学びを見取り、指導に生かすことを重視して関わることが求められます。

- 県教育委員会では、「学習者主体の授業」を、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点をもった「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業と捉えています。以下のような一律・一斉・一方向の授業だけで、「学習者主体の授業」を実現することは可能でしょうか。

【「一律・一斉・一方向の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- 子供が個々に教師に向かって話す。
- 子供がただ板書を写している。
- 教員の指示を待っている。
- 挙手をする子供が決まっている。
- ノートへ積極的に書こうとしない。
- グループ学習ではいつも見ているだけの子供がいる。
- 対話に目的がなく、ただ話している。

～教員の姿勢～

- いつもしゃべっている。
- 子供の発言を解説する。
- 子供と一問一答が多い(黒板の前から離れない)。
- 板書を書くこと、写させることに徹している。
- 挙手をする子供(同じ子供)に指名をする。
- グループの代表の子供に順番に発表させる。

授業

- ・同じ内容を同じ方法で、同じペースで進める授業
- ・教師の指示通りに進められる授業

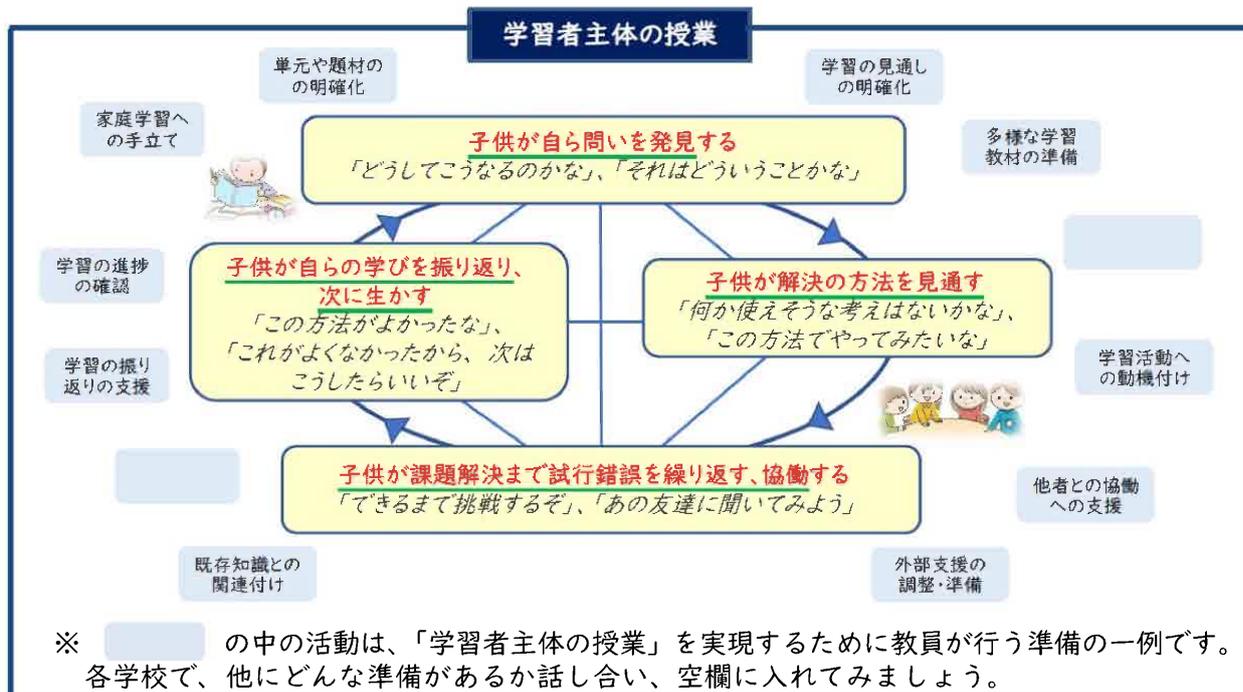
子供の姿

- ・受け身で教師の指示を常に待つ姿
- ・指示や内容に疑問を感じず行う姿

教員の姿

- ・「知識及び技能」といった「見えやすい学力」に重点をおいた指導をする姿
- ・子供が周りと同じように行動することを前提とした姿

- 子供の個性や特性が多様になっている今、これまでの一律・一斉・一方向の授業だけでは、「学習者主体の授業」を実現することは困難だと思われます。子供が自分の学習状況を把握し、自ら学びを進めていくことが必要です。
- つまり、「学習者主体の授業」では、子供が自ら「問いを発見する」、「解決の方法を見通す」、「課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する」、「自らの学びを振り返り、次に生かす」といった活動に取り組むことで、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていくことができると考えます。
- ただし、子供が自ら学びを進めていくために、教員が単に選択の機会を設けるだけでは十分ではありません。単元のねらいや子供の実態を踏まえて学習過程を構想し、目的をもった自己選択・自己決定となるよう意図的に支援することが大切であり、誰一人取り残されることなく資質・能力を身に付けられる学びを支えていくためには、下の図に示すような様々な準備を講じることが求められます。



- 授業では、子供たちが何をつぶやいているのか、何を書いているのかという姿（事実）をしっかりと見取り、その姿を認める。その上で、困っている子供が求めたタイミングで必要な内容を提示します。
- このように、教員は子供の学びを支援する「ファシリテーター的な役割」を果たすことが大切であり、こうした関わりによって、子供たちは主体的に学習に取り組むようになると考えています。

有能なファシリテーターは例えば…

【前提として】子供は「有能な学び手である」と信じる。

① 準備万端!

- 子供たちにとって、課題解決したくなる問題や内容等を提示する。
- 本単元で育成する資質・能力を子供たちと共有する。
- 学びに関わる多くの決定を子供に委ねられるように、単元構成や内容を工夫・開発する。
- 試行錯誤できる場や時間を設定し、必要となる資料や教具などを準備する。

② しっかり伴走!

- 子供のつぶやきや反応から、何にこだわっているか、どこにつまずいているかをしっかり見取り、認める。
- 子供に合わせて、立ち止まって一緒に考えたり、新たな視点を与えたりする。
- 振り返りを行わせ、子供の伸びや成長をしっかり価値付け、称賛する。

- そして、教員には、子供が自ら選択し学びを進める姿が実現しているかを見取りながら、単元や一単位時間ごとに、不断のPDCAサイクルを回していくことが求められます。

【「学習者主体の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- 子供が自ら問いをもつ場面がある。
- 子供が問題解決に向けて見通しをもっている。
- 子供が黒板、教科書、ノート、ワークシート、タブレット端末等を自分で選択し、学びを進めている。
- ネット環境を活用し、様々な角度から情報を適切に集めて考えをまとめている。
- 子供が問題解決のときに、分からない友達に教えたり聞きに行ったりしている。
- 子供が授業内容によって個、ペア、グループで学ぶことを選択している。
- 子供が各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面がある。
- タブレット端末のアプリなどを活用し、友達と意見を比較しながら考えている。
- 発表する相手を意識し、著作権などに配慮した発表データをつくっている。
- 子供全員が考えを出せるホワイトボード・短冊・付箋・タブレット端末等を使っている。
- 子供が友達の意見に関連付けて自分の意見を発表している。
- 子供が自分の言葉でまとめを書き、まとめた内容は課題と一体となっている。
- 子供が学んだ内容や、自分の学び方についてそれぞれ振り返りを行っている。

～教員の姿勢～

- ICTを活用して資料等を大きく見せている。
- 端末を持ち帰らせるなどして学びが連続する家庭学習の工夫をしている。
- ICTを活用し、友達と協働できる学習の工夫をしている。
- 子供が一人で考える時間と協働する時間のバランスを工夫している。
- 子供が、各教科における「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けているかどうかを見取っている。



※ イラストは「Image Creator」(画像生成AI)において「ICTでグループ学習をいきいきと楽しそうに行う授業 教員は子供を見守る デジタル アート イラスト」と入力し、作成

授業

- 子供それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業
- 子供が解決の方法を自分なりに選択・判断する授業
- 子供が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業

子供の姿

- 意図をもって、主体的に課題に取り組む姿
- 一人一人が自分の課題解決に向けて、試行錯誤を繰り返し、学びを調整する姿
- 協働してものや考えを創り出す姿

教員の姿

- 「思考力、判断力、表現力等」といった「見えにくい学力」や「学びに向かう力、人間性等」といった「見えない学力」も大切にする姿
- 子供たちを信じ、可能な限り学習を委ねる姿
- 一人一人のよさに着目し、そのよさを伸ばそうとする姿

(出典)「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年4月10日】(ぎょうせい)」を基に作成

4 「学習者主体の授業」とつながる家庭学習はどのように進めればよいですか

Answer

子供が主体的に学び続けていけるように家庭と連携を図りながら、家庭学習の目標や内容、進め方等を自分で決めて目標達成を目指す「家庭学習マイゴールチャレンジ」を推進することが大切になります。

- 「学習者主体の授業」を実現し、子供がより効果的に資質・能力を身に付けていくためには、家庭学習においても、子供の主体的な取組が求められます。
- 家庭学習の基本的な進め方については、全校体制で共通理解するとともに、家庭や近隣の小・中学校と連携を図ることが効果的です。
- 学校が一律に指示する課題に取り組むのみではなく、子供が家庭学習の目標や内容、進め方等を自ら決めて取り組む割合を、学年や子供の実態に応じて、段階的に増やしていくことが大切です。

－学校の取組例－

- 授業において、学んだことを日常生活に結び付けて考える場面の充実を図る。
- 予習型授業を導入し、授業内で行っていた自己追究（自力解決）を家庭での学習として位置付けて取り組むようにする。
- 家庭学習で何に取り組めばよいか分からない児童生徒への個別の支援を充実させる。
- 帰りの会や授業の中で今日の家庭学習の計画を立てる時間を設定する。
- 「マイゴールチャレンジカード」等を作成し、児童生徒が自ら計画を立てて取り組み、その振り返りを行えるようにする。
- 児童生徒の取組に、称賛や助言など具体的なコメントを添える。 など

－「マイゴールチャレンジ」の例－

- 学校から指示された課題をやりとげたり、漢字練習や音読、計算練習を継続的に取り組んだりする。
- 授業で分からなかった問題を解いたり、さらに難しい問題に挑戦したりする。
- 教科書やノートを読み返して、授業で学んだことを「自分ノート」にまとめる。
- 教科書やノートを見ながら、次の授業で学習する内容を予習する。
- 教科で学習したことを生かして、発展的な学習に取り組む。
 - ・ 国語の時間に学習した教科書教材とテーマが同じ本を読み、感想をまとめる。
 - ・ 体育の時間に学習した運動を取り入れた体力づくりを行う。
- 授業の内容や日常生活で気になることや興味があることについて、図書館や博物館などを活用しながら、とことん探究する。 など

- 上記のように、子供が家庭学習の目標や方法を自ら選択し、主体的に学びを進めていくためには、学び方の選択肢を広げ、学校と家庭をつなぐ学習環境の整備が重要になります。その一つとしてタブレット端末等の活用があります。
- 児童生徒が場所や時間等にとらわれない学びや、学校と家庭での連続した学びを実現するためには、タブレット端末を持ち帰るなどした上で、児童生徒自身が必要なときに必要な方法で、文房具のように日常的に利用できるようにする必要があります。

－タブレット端末を活用した家庭学習の例－

- グループで一つのプレゼンデータをそれぞれの家庭から共同編集する。
- それぞれが作成した発表データにお互いのコメントを入れる。
- 学習のまとめを動画で作成する。
- 技術・家庭科や音楽科、保健体育科など、家庭での取組を動画に撮って提出する。 など

【小学校における「家庭学習マイゴールチャレンジ」の実践例】

(様式1)

「家庭学習MGC」実践例

知名町
教育委員会
知名小学校 5年

○ 家庭学習の基本的な考え方

★家庭学習の取り組み時間の目安は、「学年×10+20分間」と設定。
例：5年生⇒5×10+20=70
70分間の取り組みができるように、家庭学習の内容を工夫。
読書も家庭学習の中に位置付けることで、読書冊数も向上させる。
★家庭学習が進められる環境づくりができていますかチェック。
・テレビ、ゲーム、タブレット端末等のスイッチは切っているか？
・机は整理されて集中できる場所になっているか？
・鉛筆、消しゴムなどの学習用具はそろっているか？
★保護者のチェック&見届けまで
家庭学習が終わったら、保護者に見せてチェックをもらう。

○ MGCの取組

【小学5年生 国語他のMGC】
設定した目標を達成するために、めあての設定と振り返りに取り組んだ家庭学習

★ポイント

見通しをもって取り組むために、宅習のページには、今日の家庭学習で「どんなことに取り組むのか」や、「どんな目的をもって学習するのか」を書いている。

この1ページで学んだことや身に付いたことを自覚し次の学習につなげるために、宅習の振り返りを書いている。

漢字の練習に取り組む際にも、目的をもって取り組むために、何を意識して練習するのかという目標を立てている。

目標としていたことがどれだけ達成できたかを把握するために、目標に対する振り返りを書いている。

自分の課題から目標を立て、それに基づく振り返りまで実践し、「学び方」を身に付ける流れができています。

授業と家庭学習を往還しながら、生徒が目的をもって学習を進め、振り返りを通して自らの学びを調整する姿が見える実践です。

【中学校における「家庭学習マイゴールチャレンジ」の実践例】

(様式1)

「家庭学習MGC」実践例

宇検村
教育委員会
名柄中学校 2年

○ 家庭学習の基本的な考え方

★小中学校の全校取組「我が家の家庭学習3か条」の実践化
① 余裕をもって勉強時間を確保する。(子供自身の課題)
② 正しい姿勢で学習しよう。(保護者が期待する子供への課題)
③ 字を丁寧に書く。(担任と話し合っただめた課題)

★中学校の重点取組～家庭学習の充実と教師の見守り
① 生活の記録…帰りの会で、その日の家庭学習の計画を立てる。
② 宿題…各教科から指示された課題に取り組む。
③ 宅習…自分で学習方法や内容を決めて取り組む。

★提出物を使った振り返りの活用～保護者・学校・子供の連携
① 毎日の振り返り…生活の記録
「家庭学習の記録」を使って、学校で立てた計画に沿って、実際に学習した内容や時間、達成度を記録する。
教師は、提出物を通して、本人の学習状況を確認し、適宜、担任や教科担当が助言する。
② 2か月ごとの振り返り…生活リズムチェック表
全校取組である「生活リズムチェック表」を使って、「我が家の家庭学習3か条」の達成度や実際の学習状況を家庭で話し合うことで、家庭学習の取組や学習環境の見直しを行う。家庭での振り返りは、担任と学習係の教員、管理職が共有し、コメントを通して、本人と家庭にフィードバックする。

○ MGCの取組

【中学2年生 表現活動(社会科、国語科)における発表のMGC】
より分かりやすく、魅力的に伝える発表にすため、情報収集や資料作成の工夫に取り組んだ家庭学習

★ポイント

1 社会科…教科書やノートを読み返して、授業で学んだことを「パフォーマンス課題」にまとめる。

各単元の導入時に、進め方と発表までの流れを理解し、授業での学びを生かしながら、自分の考えに沿ったパフォーマンス課題を作成する。

授業の中で、発表の構成を考え、資料の作成や家庭学習で行うべき改善内容を整理する。

授業では不十分だった内容は、納得できるまで家庭学習で練り上げた上で発表に臨んだ。発表動画を使って、振り返りを行った。

2 国語科…資料を示してプレゼンテーションにまとめ、授業参観で発表する。

授業では、「山村留学」の視点から、宇検村を活性化するためのテーマで、資料を整理しながら構成をまとめた。

学校ではネット利用に制限があるため、家庭で学習支援アプリを活用し、資料を練り上げた。

授業と家庭学習の成果を、授業参観で保護者にも披露し、みんなで振り返りをする中で、自分の学習の過程と発表内容に、大きな達成感を得ることができた。



「家庭学習マイゴールチャレンジ」実践例
←鹿児島県教育委員会
「家庭学習マイゴールチャレンジ」実践例



家庭学習でのICT端末活用の実践事例(StuDX Style ホームページ)
←文部科学省「StuDX Style」

5 「学習者主体の授業」を実現するために、どのような研修が必要ですか

Answer

子供の学びと教員の学びは相似形であることから、「学習者主体の授業」を実現するための研修も、研修者が主体となって「学習者主体」の視点を重視した授業研究を中心とした研修が求められます。

- 「学習者主体の授業」を行うに当たっては、まず、それぞれの教員がもつ「子供観」を交流し、「観のアップデート」を行うことが重要です。
- その上で、子供たちに育成する資質・能力を校内で共有し、具体化に向けた手立てを教育課程に反映し、実施、評価、改善していく組織体制が不可欠です。
- その共通理解の下、授業参観を行う際には、子供の学びの姿（事実）が、育成する資質・能力を発揮した姿として表れているか、「子供たちが」何をつぶやき、どのような行動をとっているかを根拠に指導法を見つめ直すことが大切になります。
- このような視点に立って授業研究を行うには、本県が推進している授業研究が有効です。

どのような授業研究ですか

1 子供の学びの姿（事実）からスタートする

校内研究授業では「首をかしげていた」、「すぐに鉛筆を持って書き出した」など、子供たち一人一人の学びの事実を丁寧に見取ります。その際、「楽しそうに活動していた」という推測や、「子供がよい発表をしていた」という評価は除きます。

2 子供の学びの姿（事実）の解釈について交流する

事実のもつ意味や解釈を交流することにより、新たな気づきや発見とともに、授業観や子供観等の観のゆらぎが生まれます。

3 授業における目指す子供像に迫っていたかどうかを検証する

子供の学びの姿（事実）の背景を、子供の立場になって考えます。

4 共通実践事項を検討し、実践する

子供たちのために具体的に授業をどのように改善するかを話し合い、共通実践事項として決定します。決定後は、共通実践事項を踏まえた授業実践を行います。



どのような効果がありますか

上記の1～4の授業研究を行い、授業改善に生かしている学校では、主体的に研修に参加する教員が増え、子供観の交流や授業の在り方に関する積極的な意見交換が行われています。

また、学校全体で目指す子供の姿を追い求めた具体策を検討し、学力調査の結果につながっている学校も増えています。実践している学校では、以下のような声が聞かれます。

（参加教員）

子供の学びの姿（事実）の解釈では、多様な見方が見られ、新たな視点に気付かされた。子供を観察する力をしっかりと身に付けたい。

（管理職）

学習者主体という言葉はよく聞くが、子供を主語として語り合う教員の姿が、求められている姿だと実感できた。

（授業者）

教科は異なっても、同じような部分に課題があることが分かり、全校体制で改善を図る必要性を感じた。



総合教育センター作成による「教職員のための研修の手引き」がリニューアルされています。子供たちの資質・能力の育成に向けた組織的な校内研修の在り方の参考として活用しましょう。

←総合教育センター「教職員のための研修の手引き」

6 「学習者主体の授業」の効果を高めるために必要なことは何ですか

Answer

生徒指導、特別支援教育、教育DXといった、様々な視点から授業改善に取り組むことが大切です。

視点Ⅰ 「生徒指導」の視点を重視した授業改善

- **生徒指導提要**では、学習指導の目的を達成するとともに、生徒指導の目的を達成し、生徒指導上の諸課題の未然防止を図るためにも、教育課程における生徒指導の働き掛けが欠かせないとされています。
- 学習指導と生徒指導を分けて考えるのではなく、相互に関連付けながら両者の充実を図り、教育目標を実現するために、「**子供の発達を支える指導**」（発達支持的生徒指導）の充実を具現化することが大切です。

発達支持的生徒指導とは何ですか

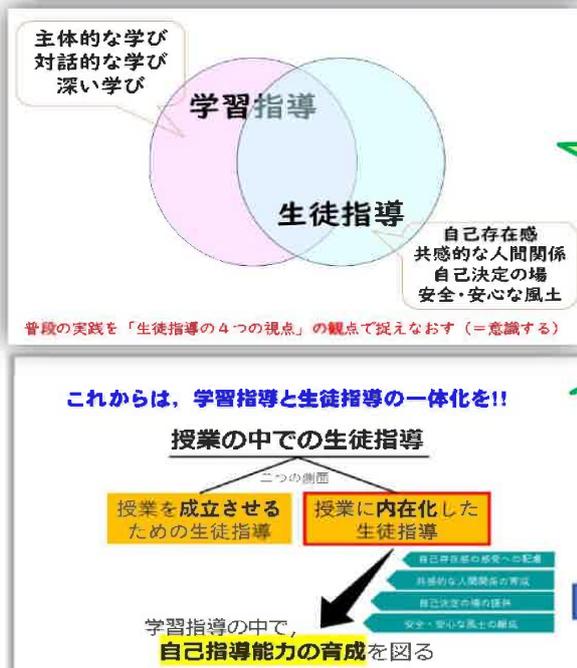
- 特定の課題を意識することなく、全ての子供を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の**全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤**となるもの
- 学校や教職員は、子供が自発的・主体的に自らを発達させていく過程を支えるという視点に立ち、子供の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ように働きかける。

<大切！>

- 全ての子供への日常的な挨拶や声かけ、励まし、賞賛、対話 等
- 授業や行事等を通じた個や集団への働きかけ
- 学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場に（居場所づくり）、活躍できる場を計画・準備する活動（絆づくりの場の提供）等

学習指導と関連付けて行うことも重要

授業の中に、生徒指導の実践上の4視点を取り入れましょう。



これからの授業づくりでは、「**学習指導要領**」の趣旨を踏まえるとともに、「**生徒指導提要**」も活用して、学習内容や支援の方法、学習環境や形態等を工夫することが重要です。

授業こそ、最も重要な発達支持的生徒指導の場です。

生徒指導の実践上の4視点

- 自己存在感の感受への配慮
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

このような取組を積み重ねることが「魅力ある学校づくり」を推進する上で重要です。発達支持的生徒指導を踏まえた学習指導が展開されることで、児童生徒の**自己肯定感**や**自己有用感**が高められるとされています。このような生徒指導の視点を重視しながら授業改善を行っていくことは、「**学習者主体の授業**」を実践するためにも重要となります。

視点Ⅱ 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う際には、特別支援教育の視点に立って指導・支援を行うことが有効です。



1 特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

はじめに・ 学びにくさのある子供のアセスメントを実施 → 学びにくさを把握し、
 個別の指導計画を作成 → PDCAサイクルで実施

Plan ・ UD(ユニバーサルデザイン)を意識した単元構想と授業づくり
 ・ ICT等を活用した一人一人に合った指導・支援の計画

Do ・ 授業の実践 ・ 「個別最適な学び」 ・ 「協働的な学び」

Check ・ 有効な指導・支援について本人(保護者)とともに確認 ・ 課題の把握

Action ・ 個別の指導計画を更新 ・ 本人・保護者との評価の共有 ・ 授業改善

「個別最適な学び」を教員の視点で整理した概念が「個に応じた指導」です。「個に応じた指導」で子供が身に付けたことを、学級等で友達とともに学ぶ集団学習の中で生かすことができるよう、「協働的な学び」を計画的かつ積極的に工夫して取り組むことが大切です。

2 ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・環境整備

- 発達障害等を含む配慮を要する子供に「ないと困る支援」
- どの子供にも「あると便利で、役に立つ支援」

→ 全ての子供の過ごしやすさと学びやすさの向上

ユニバーサルデザインの視点
焦点化(シンプル) 明確化(クリア) 視覚化(ビジョン)

ア 焦点化(シンプル)

- 環境づくり(場の設定・音の配慮)
- イメージづくり(間・選択肢・区切り)
- 短い言葉で伝える
- ※ 教員がどれだけ意識して指導することができるかが大切です。

イ 明確化(クリア)

- 正しい行動を明確に伝える
- 「いつ・どこで・何を」すればよいのか(大丈夫なのか)教える
- ※ 一斉指導で、または個別に明確に伝えることが大切です。

ウ 視覚化(ビジョン)

- 見えないものを見えるようにする
- イメージを助けることで安心を与える
- ※ 視覚化することで、安心して自分から動くことやできることが増える。

学級でのユニバーサルな配慮 ~例~

- 「注意喚起」…注目させてから話す
- 「視覚化」…言葉+実物・絵・文字
- 「簡潔な指示」…一度に一つの指示
- 「復唱」…繰り返し唱える
- 「行動の確認」…今から何を?



ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進める際には、「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」も活用してください。

←鹿児島県教育委員会 「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」



視点Ⅲ 「教育 DX」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現には、子供自身が ICT を活用して個々の状況、特性に応じて、自ら目標を設定し、学習方法等を自ら選択、自己評価できる学習モデルを創造していく、教育における DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進することが不可欠です。

1 タブレット端末利用の日常化・文房具化

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、タブレット端末を活用しましょう。

子供が場所や時間・言語等にとらわれない学びや、個々やグループ等の特性に応じた学びを実現するためには、タブレット端末を、教員の指示に限らず、児童生徒自身が必要な時に必要な方法で、文房具のように日常的に利用できるようにする必要があります。これにより、子供は、自らの学びを調整しながら学び進めていくことが可能になります。

2 教育データの利活用

蓄積された教育データを有効に活用し、授業改善に生かしましょう。

- 子供の学習履歴や学習成果物等のデータを基に児童生徒の学びの特性を把握し、それに応じて指導の個別化を図ったり、子供自身が学習方法を選択したりすることができるように指導します。
- AIドリル等を活用することで、習熟状況をリアルタイムで確認できます。一人一人の子供の学習進度や課題に応じた練習問題を自動で表示させるなど、主体的に学習に取り組めるようにします。
- 学習系と生活系のデータ(出席状況、心の健康状態など)等、様々なデータの相関により、これまで教員の勘や経験だけに頼っていたものに、データによる裏付けを加えることで、より子供を適切に理解し、指導・支援に生かすようにします。

3 学習の基盤となる情報活用能力の育成

教科等横断的な視点から、学習の基盤となる情報活用能力の育成を目指しましょう。

学習指導要領解説 小学校総則編から抜粋

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

情報活用能力

学習活動

情報収集

整理・比較

発信・伝達

保存・共有

資質能力

基本的な操作技能

プログラミング的思考

情報モラル

情報セキュリティ

統計

デジタル学習基盤の活用は、授業の目的達成のための手段であり、子供の情報活用能力を育てるものです。

また、校務に活用することで教育 DX を推進し、その便利さを授業に生かしていくことが必要です。



文部科学省
「StuDX Style」(スタディー・エックスタイル)



鹿児島県総合教育センター
「かごスタDX」



鹿児島県教育委員会
「教育の情報化」推進プラン Ver.2.0



鹿児島県教育委員会
「100人の1歩のための100のヒント」

※県域アカウントによるログインが必要です。

7 「学習者主体の授業」の実践例はありますか

Answer

「学習者主体の授業」実現プロジェクトの実践の中から、単元計画デザイン、一単位時間の授業、授業改善を図るための校内研修について、それぞれの具体的な実践の例を紹介します。

実践例 1

「学習者主体の授業」を実現する単元計画デザインの実践例
 「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 長島町立平尾中学校
 中学校社会科 第3学年 単元名「私たちの暮らしと経済」（全23時間）

単元計画デザインのポイント

- 学習内容の構造化を図り、各単位時間の学習を基に「日本経済の重要課題」について自分の考えを深める単元構成とする。
- 単元を通した学習課題「日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか」を設定し、「対立と合意」や「効率と公正」などの現代社会の見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- 単元の導入では、コンビニエンスストアの立地を考察する活動を行うことで、経済学習への興味・関心を高める。コンビニエンスストアの立地を、経営の効率や消費者の利便性等の視点から考察する活動を通して、単元の学習内容（企業の活動や消費生活、生産と労働など）を概観させる。
- 生徒が単元のワークシートで学習履歴を参照し、単元を通した学習課題を意識しながら学習を進められるようにする。

実践例 2

■ 単元のオリエンテーション（第1時） ⇒ p.18 参照



なるほど。コンビニエンスストアがある場所に印がついているのか。

長島町、出水市、阿久根市の地図に印をつけてみました。何の分布を表しているでしょうか。



【本時の学習課題】

コンビニエンスストアをどこに開店したらよいか。

あなたは、大手コンビニエンスストアに勤める社員で、次期出店計画を立てることになったとします。A市、B市、C市のうち1か所にコンビニエンスストアを出店しようと考えています。どこに出店したらよいでしょうか。その際、経営者、客（消費者）、店員（労働者）などさまざまな立場に立って考え、できるだけみんなに愛される店を目指しましょう。（教科書掲載資料）



どの場所に出店したらよいだろう。迷うなあ。

出店場所を考える活動を通して感じたことや気付いた点を整理しよう。



【単元を通した学習課題】を設定し、単元の学習の見通しをもつ。

日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか。



私たちの消費活動はどのような仕組みに支えられているのかな。

💡 ポイント 💡

- 生徒にとって身近なコンビニエンスストアの立地を考察する活動を通して、経済学習への興味・関心を高めさせるとともに、経済を理解するための視点を意識させ、単元の学習内容についての見通しをもたせています。

実践例 3

■ 消費生活からみた日本経済（第2時～第5時）

私たちの消費生活は、経済とどのように関わっているのだろうか。
商品はどのようにして消費者のもとに届くのだろうか。



卸売業者や小売業者は、労力や費用を抑えるために、流通の合理化を進めていることが分かりました。

■ 生産と労働からみた日本経済（第6時～第10時）

私たちの生活に必要なものは、どのように生産されるのだろうか。
企業にはどのような役割があり、どのような社会的責任があるのだろうか。



企業の目的は、利潤を得て、それをできるだけ大きくすることなのだ。
企業は、社会的責任を果たすための取組をしているのだ。

■ 市場経済の仕組みと金融からみた日本経済（第11時～第16時）

市場経済において、価格はどのように決まるのだろうか。
金融は、私たちの社会でどのような役割を果たしているだろうか。



価格が上下に動くのを見て、消費者も生産者も自らの行動を変化させている。
金融は、家計や企業の消費や生産を助ける働きをしているのだ。

■ 財政と国民の福祉からみた日本経済（第17時～第20時）

市場経済において、財政にはどのような役割と課題があるのだろうか。
少子高齢化は、我が国の財政にどのような影響を及ぼしているだろうか。



企業に公正で安全な経済活動を促すなど、政府は市場経済の中で多くの役割を担っているのだ。

■ これからの日本経済と社会（第21時～第22時）

経済成長と真の豊かさとはどうあるべきだろうか。



持続可能な地域の将来のために、私たちや自治体、企業に求められることは何だろう。

■ 単元のまとめ（第23時）

日本経済の重要課題は何だと考えますか。また、その課題を解決するために、どのような取組が必要だと考えますか。単元の学習を通して分かったことや考えたことを生かして自分の言葉で表現してみよう。



単元の学習を終えた今、コンビニエンスストアをどこに開店しますか。

💡 ポイント 💡

- 各単位時間は、学習課題の設定→個・協働による追究→個によるまとめ→振り返り（新たな問いの発見）の学習過程を基本としています。
- 学習内容の構造化を図り、各単位時間の学習を総合して、単元を通じた学習課題を考察するデザインになっています。また、学習の成果を踏まえて、単元導入の活動を振り返ることで、自分の学びの広がりや深まりを実感させています。

「学習者主体の授業」を実現する単元計画 (P16~17) の第 1 時の実践例
 本時の題材名 「コンビニエンスストアをどこに開店したらよいか」(1/23 時間)

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 導入の場面で、生徒にとって身近なコンビニエンスストアに着目させ、学習に対する興味・関心を高める。
- 展開のコンビニエンスストアの立地について考察する学習活動では、思考ツールや学習形態の自己選択・自己決定を行わせ、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。
- 終末の場面では、自分の考えを広げ、深めていくためには新たな視点を加えて考察する必要があることを実感させ、これからの経済学習につなげる。
- 互いの考えを参照したり、学習履歴を蓄積したりするための ICT 活用を図る。

〈導入〉

- 資料を見て、何の分布を示しているか予想する。
 【資料】長島町、出水市、阿久根市におけるコンビニエンスストアの分布(地図)
 【資料】コンビニエンスストアの店舗(写真)
- 本時の学習課題を設定する。

コンビニエンスストアをどこに開店したらよいだろうか。

【資料】「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」(教科書掲載資料)

- 自分がコンビニの経営者だったら、どこに出店するか個人で考える。



友達の意見を聞いていると、他に考えないといけないことがたくさんあるな。

みんなが出店する場所を決めた理由は何かな。



💡ポイント💡

- 生活圏におけるコンビニエンスストアの分布や写真を提示し、生活経験と結び付けながらコンビニエンスストアの立地を考察させるようにしています。

〈展開〉

- イメージマップやマトリクスなどの思考ツールを選択し、自分の考えを整理して、練り上げる。
- 必要に応じて、同じ考えや異なる考えの友達と意見交換を行う。



人の流れを考えると、この場所がよさそう。



この場所は、これから人口が増えそうだぞ。

第 4 章 私たちの暮らしと経済-マネージャー

本朝()

【学習課題】コンビニエンスストアをどこに開店したらよいだろうか。

① 生活圏の自分の考えとその理由
 [] 自由に記述する。
 【理由】

② 考えを深めるために使う思考ツールは— []

③ 同じ課題の人と考えを深めよう。

[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
-------------------------	-------------------------	-------------------------

④ 仲間と意見を聞こう。

[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	[] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
-------------------------	-------------------------	-------------------------

⑤ 課題の自分の考えとその理由
 [] 自由に記述する！
 【理由】

⑥ 自分と友達との考えを比較しよう。
 [] 自由に記述する！

💡 ポイント 💡

- 生徒が自分の考えを広げ、深めることができるように、思考を整理し、練り上げる方法や学習形態を自己選択・自己決定させています。
- 各生徒の考え(開店場所とその理由)について、端末を使って互いに参照できるようにしています。
- 教師は、生徒同士の意見交換を促すのみではなく、考えの内容やワークシートの記述等を踏まえ、新たな気付きにつながる働きかけを行っています。
 - ・ 社会的な見方・考え方を働かせるための助言(「経営者や消費者などの立場で、効率と公正などの視点から考えてみてはどうだろうか」)
 - ・ 明瞭化を促す発問(「それはどういうこと?」「誰が?」「誰に?」)
 - ・ 思考の転換や焦点化を図る発問(「それだけ?」「本当に?」)
 - ・ 推論をさせる発問(「もし…なら」「~だったらどう?」)

- 最終的な個人の考えをまとめ、発表する。



なるほど。〇〇さんの考えには気付かなかった。
いろいろな考えがあって、どれがいいのかよく分からないな。

〈終末〉

- 自分の考えをさらに練り上げるためには、他にどのような情報(資料)があれば良かったかを考える。



店舗の建設費用や金融機関からの融資のこと、地域住民の願いなど、もっといろいろなことが分かるといいな。

💡 ポイント 💡

- 答えが一つとは限らない学習課題(コンビニエンスストアの立地)に対する考えを深めるためには、新たな問いを設けて追究する必要があることを生徒自身に実感させる学習過程の工夫が見られます。

- 単元を通した学習課題を設定し、今後の学習について見通しをもつ。

【単元を通した学習課題】

日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか。

- 今後の学習計画を確認する。

これから経済の学習を進めていきます。この時間にみんなが考えた企業や消費者の活動、労働者のこと、我が国の経済のしくみなどについて、くわしく学んでいきましょう。

次の時間は、私たちの消費生活と経済の関わりをテーマにしていこう。これからの学習で分かったことや気付いたこと、疑問に感じたことはワークシートに記録していき、単元最後の時間に単元を通した学習課題に対する自分の考えをまとめられるようにしてください。



私たちは、コンビニなどで、いろいろな商品を買っているなあ。私たちの消費活動は、社会とどのようにつながっているのか、詳しく知りたいな。

「学習者主体の授業」を実現する一単位時間の実践例
 「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 西之表市立種子島中学校
 中学校数学科 第1学年 「平面図形の見方を広げよう」(11/15時間)

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 前時に本時の学習課題を立て、家庭学習で自分の考え等をまとめ、それを基に本時はペア及び全体の協働的な学びから始めることで、意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えをより深めることができるようにする。
- 難易度の異なるワークシートや発展問題を準備し、生徒が自分の興味や関心、学習状況に応じて自己選択・自己決定できるようにし、自ら学びを調整し、50 分間の授業において、個別最適な学びを実現できるようにする。

(予習) 前時~家庭学習

〈導入〉

- 次時の学習問題を確認する。

種子島に住む智子さんと圭太さんは、種子島宇宙センターの近くで迫力のあるロケットを見に行きたいと考え、待ち合わせしました。2人が待ち合わせした場所Pを作図によって求めなさい。

〈待ち合わせ場所〉
 2人がいる位置から等しい距離にある地点のうち、Aホテルから最も近いところ



- 解決の見通しをもつ



垂直二等分線の作図を使えば、解決できそうだな。



垂線の作図も使えそうだよ。

- 次時の目標を立てる。

【学習課題】

これまでに学習した作図をどのようにして利用して解けばよいだろうか。

- 問題の解決に取り組む。(※ここから家庭学習)

(本時)

〈展開〉

- 学習問題と学習課題を確認する。
- これまでに学習した垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図が、どのようなときに利用できるのか振り返る。
- どの作図を用いて考えたのか、理由も含めてペアやグループで説明するとともに、必要があれば自分の考えを修正する。

どのようなことに気をつけて説明すればいいかルーブリックで確認しましょう。



💡 ポイント 💡

- 生徒が予習で取り組んだ内容を本時まで確認し、一人一人の学習状況を的確に把握した上で、個への働きかけを具体的に検討することが必要です。
- 単元や節の冒頭で、「ゴールの見通し」と「プロセスの見通し」をより明確にするために、ルーブリックを活用して単元の目標を設定するとともに、ピアラーニングの際は、ルーブリックを基にどのように説明すればよいか等を明確にして意見交換できるようにすることが大切です。

- 全体で確認する。

□ 本時のまとめを行う

点や線に置き換えて、次のことに着目して作図をすればよい。

- ・ 1点から直線への最短距離…垂線
- ・ 2点から等しい距離 …垂直二等分線
- ・ 2直線から等しい距離 …角の二等分線

本時のまとめを自分なりの言葉で書きましょう。



□ 難易度別の適用問題に取り組む。

- ① 予習で取り組んだ問題よりも簡単な問題
※利用する作図の考え方は一つ
- ② 予習で取り組んだ問題の類題
※利用する作図の考え方は二つ
- ③ 身近な問題で作図を利用して解決する問題
※利用する作図の考え方は複数

3種類の問題から、自分に合った問題を選んで解決してみましょう。個人で取り組んでも、ペアやグループで取り組んでも構いません。



予習の問題は説明までできたから、もっと難しい問題に挑戦してみたいな。



予習の問題より難しそうだから、友達と話し合いながら解決したいな。



予習の問題で完璧に説明できなかったから、まずは簡単な問題に挑戦しよう。



💡 ポイント 💡

- 問題解決ができるように、生徒の理解度に応じてこれまでの学習の蓄積（ノートや授業支援ツール等）やオンライン学習教材を準備し、机間指導の際に適切な助言を行うことが重要です。
- 教員は、生徒の学習の様子や達成状況を見取りながら、「難しすぎないか」「さらに挑戦できそうか」などと問い返すことで、生徒が自ら課題を調整できるように支援していくことが大切です。

〈終末〉

□ 本時の振り返りを行う。



振り返りシートに、ルーブリックを基にして、学習内容や学習方法について自己評価を記録しましょう。また、学びの振り返りについて、接続詞を入れて2文80字以内で記録しましょう。



💡 ポイント 💡

- 自分の学びを振り返る際に、「この授業でわかったこと」、「既習内容との関係性」、「自分の学びの変容」の視点で記述させることで、生徒は、自分がどのような学び方で、何が分かったのかなど自分の学びを客観的に捉え、自己調整を図ることができます。
- 振り返りの際に、ルーブリックを再掲示し、本時のめざす学びの姿を具体的に共有しておく必要があります。また、授業の過程で、ルーブリックを参照する場面を適宜設けることが大切です。
- 共同編集機能を備えたオンライン表計算ツールを活用して振り返りを行うことで、自分自身のこれまでの振り返りや、他者の振り返りを参照し、振り返りの内容の充実を図ることも効果的です。

□ 次時の学習について問題を把握し、学習課題を設定する。

学習者主体の視点から授業改善を図るための校内研修の実践例
「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 曾於市立月野小学校

校内研修充実のためのポイント

- 「学習者主体の授業」の視点から、指導の工夫が十分なされた授業をデザインする。
- 授業を参観する前に、全員で「本時で目指す児童生徒の姿」を共通理解し、授業を通して「その姿に迫れていたか」を意識する。
- 子供の学びの姿から、的確に事実を観察する。
- 導いた展望から、個人で何に取り組むのかについて、具体的に考察する。

1 授業前に、本時における目指す子供の姿及びそのための手立てを確認する。

【本時で目指す児童生徒の姿】

- 1 児童が課題・めあて・道具・活動・解決方法・学習時間・学習形態などを自ら選択し、自己調整しながら学びを深める姿
- 2 児童が進んで「聴き合い」、課題を解決するとともに、自分に必要な情報を「学び」としてノートやタブレットに残そうとする姿
- 3 児童が学びの成果を互いに交流し、振り返ることで学びをつなげようとする姿

この二つがリンクしているか、指導案検討の際にしっかり確認しましょう。

【目指す児童生徒の姿への手立て】

- 1 児童が学習の見通しをもてるように、教師からマイプランを提示し、自らのプランを立てたり、相手・場所・方法等を選択したりすることで学びに向かう姿勢を高める。また、自らの学びを選択させることで成果や課題に対する関心を高め、自己調整力が高まるようにする。
- 2 個に応じた学びが展開されるように、「マイプランで進めよう」を提示し、座席の配置や課題等を工夫して協働的な学びにつながるような環境を設定する。また、学びを分かりやすく伝えるために、「学びを深めるマイノート」に取り組ませることで、他者との学びが深まったりつながったりしやすくする。
- 3 ガイドを中心とした学習展開において、学びの成果を交流させることで新たな考えに気付いたり、自分の進捗状況を把握したりする機会を設定する。

2 授業における子供の学びの姿を観察し、事実のみを付箋に記録する。

NGワードとは？

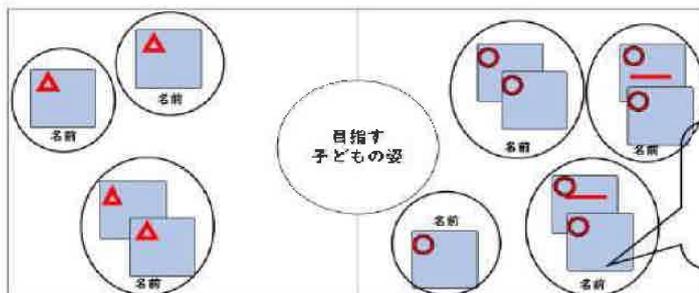
- ① ~だったと思う
- ② ○○のように見えた
- ③ 先生は、Aすべきだったのに...
- ④ これは面白いと思った
- ⑤ 非常にすばらしいことに...
- ⑥ 楽しそうに...

事実のみを記録

- ・ 生徒が~していた
- ・ 教師が○○と発言した
- ・ 図を使って生徒が説明をした
- ・ 机間指導で声をかけた
- ・ まとめて自分たちの言葉で文章を書かせた

基本的に、参観者は児童生徒の学びに介入せず見守るスタンスになります。
また、「子供のノートへの書き込み内容」といった思考・判断・表現を記録すると、その後の議論が深まります。

3 観察した事実を、目指す姿に迫っていたもの(○)とそうでないもの(△)に分類し、グループ핑して「しっくりくる」名前を付ける。

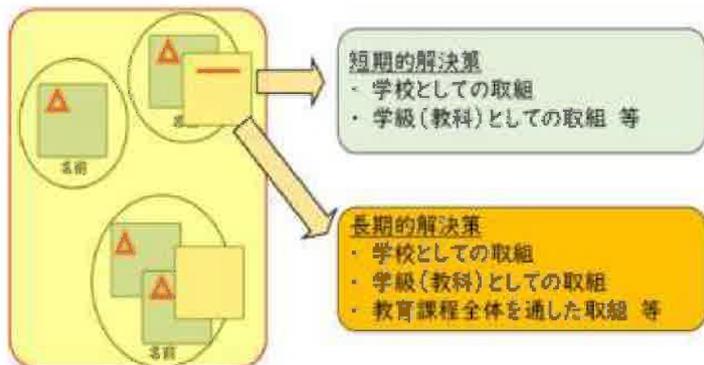


「端末活用」「班学習」といった教師の手立てや学習形態の名前ではなく、子供の姿で表しましょう。

この名前はなるべく一言で簡潔に表すことができる言葉が望ましい。

4 子供の姿(付箋に記入した事実)の分析から展望を導く

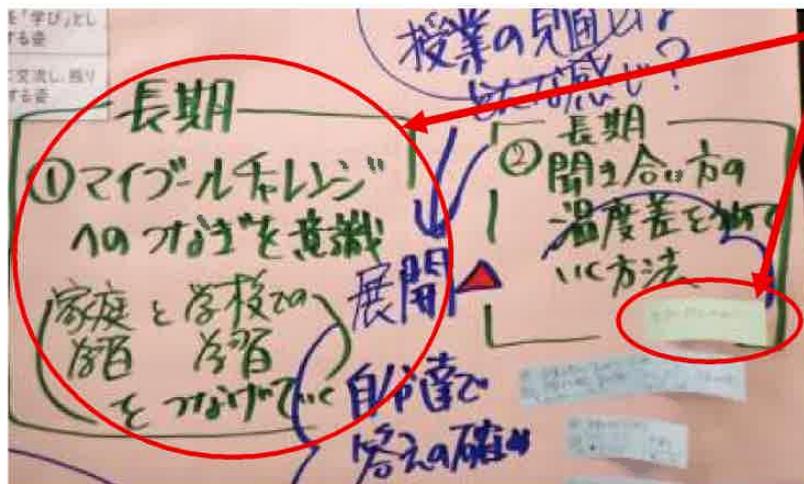
- (1) △を付けたグループから一つ抽出し、なぜそうなったのかを**子供の目線で解釈**し、それを解決するためのアイデアをいくつか出し合い、それらを基に**短期的・長期的**に取り組みそうなことを書き出す。



【月野小自校化のポイント】

通常は、展望の根拠となる子供の姿を残すために、右のタイプの展望シートを 사용합니다。月野小では、下図のように、アイデアを色の違う付箋に書いて貼った後、長期で取り組みそうなこと(解決策)も空いたスペースに書き込んで、子供の姿から取り組みそうなことまでを見やすくすると同時に、時間短縮も図っています。

展望シート	
△の子供の姿に付けた名前	左の場面の子供の姿(付箋) *展望の根拠となる子供の事実を残しておきましょう
アイデア	
・ ここには、課題解決にむけたアイデアを箇条書きで記しましょう	
短期的 上記のアイデアを具体化し、ここには、明日から取り組みそうなことを記しましょう	長期的 上記のアイデアを具体化し、ここには、学年レベル、学校レベルで組織的かつ長期的に取り組んでいくことを記しましょう



右の赤枠内がアイデアを書いた付箋、左の赤枠内がそのアイデアを具体化(長期的に取り組む内容を構想)した部分です。学校として本プロジェクトで行う研修に対する取組が習熟すると、研修を更に充実させるためのアイデアも生まれます。学校の実態に応じて自校化を図ることは、とてもよいことです。ただし、自校化を図る際は、研修の本質から離れないよう十分注意してください。



- (2) グループ毎に導いた展望を発表し合い、今後できそうなことについて意見を出し合い、後日研修係でまとめて提案する。

展望を事後の具体的な指導に生かすための工夫(出水市立東出水小学校の実践)

各グループの展望を班の代表がホワイトボードにそれぞれ記入し、全員でポイントとなる部分を共有する。(分析の一覧表ができあがる!) ことに加えて...

【ここがポイント!】

ここで研修を終了とせず、共有した展望やポイントから、学校全体で共通理解、共通実践するとよいこと、個人として今後に生かしたいことなどを考える時間を確保(5分程度)し、個人でワークシートに書き出す。

その後、ワークシートに記入したことをいくつか全体で共有し、個人でできそうなことはすぐに取りかかる、学校として取り組むことは研修係から後日提案するという流れで行っている。

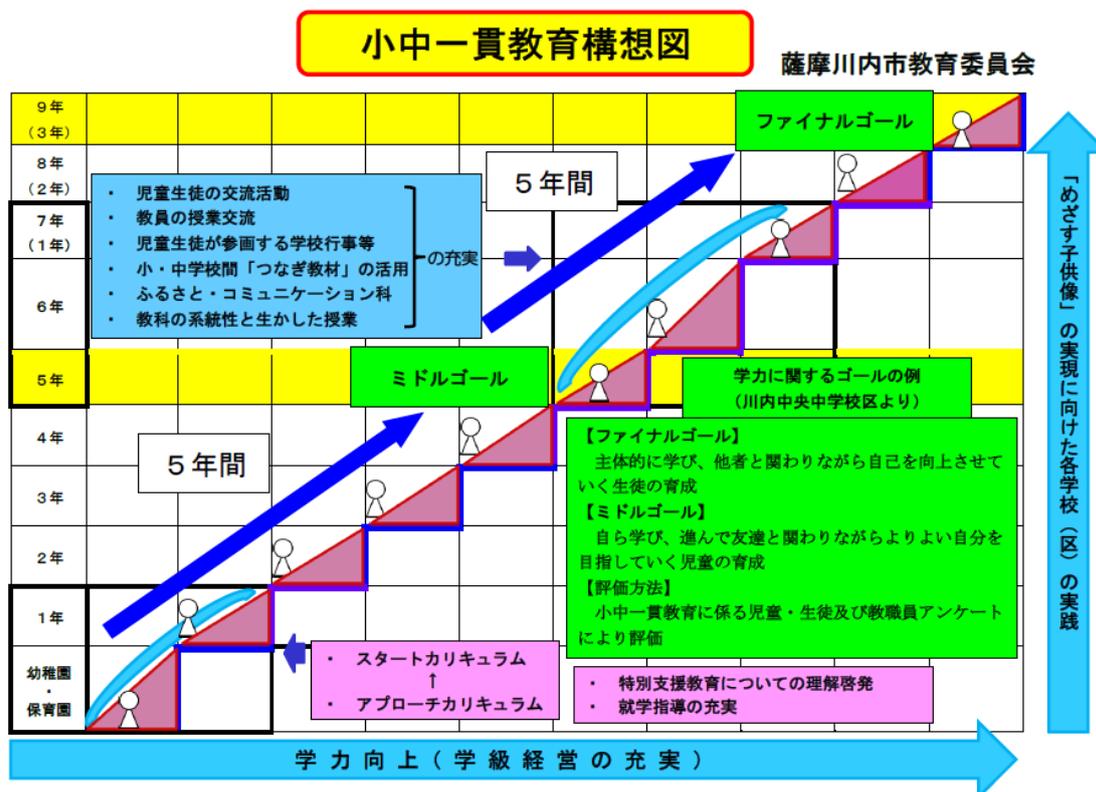
この部分を充実させることで、研修の成果を具体的な教科指導等に生かすことができますね。



「学習者主体の授業」の実現につながる小中連携教育

～9年間を見通した授業づくり～

- 子どもたちが安心して学び続け、自分らしく成長していくためには、学校段階が変わっても学びが途切れることなく、連続した学びが保障されることが重要です。
- 文部科学省では、小中連携教育を、「小学校と中学校が互いに連携し、義務教育9年間を見通して教育活動を充実させる取組」と位置付けています。これは、学校段階の区切りを越えて子供の成長を継続的に支える教育の在り方を示すものです。
- 県内においても、学校間の交流活動や授業参観、教職員同士の学び合いなどを通して、学習面だけでなく、生活面や人間関係づくりも含め、切れ目なく子供を支える取組が進められています。
- 小中一貫教育に取り組む薩摩川内市では、小学校高学年段階の到達目標を「ミドルゴール」、中学校卒業時の姿を「ファイナルゴール」として段階的に設定し、9年間を見通した教育を推進しています。



(出典) 薩摩川内市教育委員会「薩摩川内市の小中一貫教育」

- このように、小中学校がめざす子供の姿を共有し、9年間を見通した指導を積み重ねていくことは、子供の学びの連続性を保障し、主体的に学び続ける力の育成につながります。
- 義務教育9年間を貫く視点で子供の学びを捉えることは、全ての学校で実践可能であり、授業改善のさらなる充実につながります。
- なお、「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」は、幼児期の学びと小学校での学びを円滑につなぐための取組です。幼児期に育まれてきた主体的な遊びや学びを生かしながら、小学校での生活や学習へと無理なく移行できるようにすることをねらいとしています。こうした幼保小の連携も、子供の学びの連続性を支える大切な視点の一つです。

授業づくりのための参考資料等



へき地・複式教育の基本的な事項についてまとめた
『南北600キロの教育』～へき地・複式教育の手引き～はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会 「南北600キロの教育～へき地・複式教育の手引き～」](#)



全43市町村教育委員会から提出していただいた
「学習者主体の授業」実践例はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会 「学習者主体の授業」実践例](#)



県総合教育センターが運営する「かご研ポータル」は、教職員研修支援ポータルサイトです。教職員研修や児童生徒支援、授業づくり、校内研修などに関する資料や研修情報が掲載されており、日々の教育実践に役立つ情報をいつでも確認することができます。
「かご研ポータル」はこちらから。

← [鹿児島県総合教育センター 「かご研ポータル」](#)



幼児教育施設及び小学校における架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図るための「鹿児島県幼保小接続ガイドライン」はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会 「鹿児島県幼保小接続ガイドライン」](#)

Memo

